

北齊書譜上編

全

166

大りてハ山岳江海小りて
鳥雀蟲魚こゝあひし人物を
尤がくしそ最妙を具画得る
者少くもや
畫の道も亦廣く明の如く
齊の如く年
府下に遊むしそ此こそ
文政の達磨師の
像を要する其大を歌ハ
又寸人か禽を
圖して其細をを致し人皆
歎賞を事

云々所々あり予箱乃畫譜上題を以て
己尔三度先^ミに云く如く箱と大をきりて若
なく又之細をくりてその形をんかき其
端も次^{ツギ}にすう卷に於て之妙に飛鳥文
等々今あはた名考ある毎にいづゆふ
いづく出ず申以興く妙也と是箱の
畫圖南畝屋起る

庚府下
申林子藏

























盲人
川越





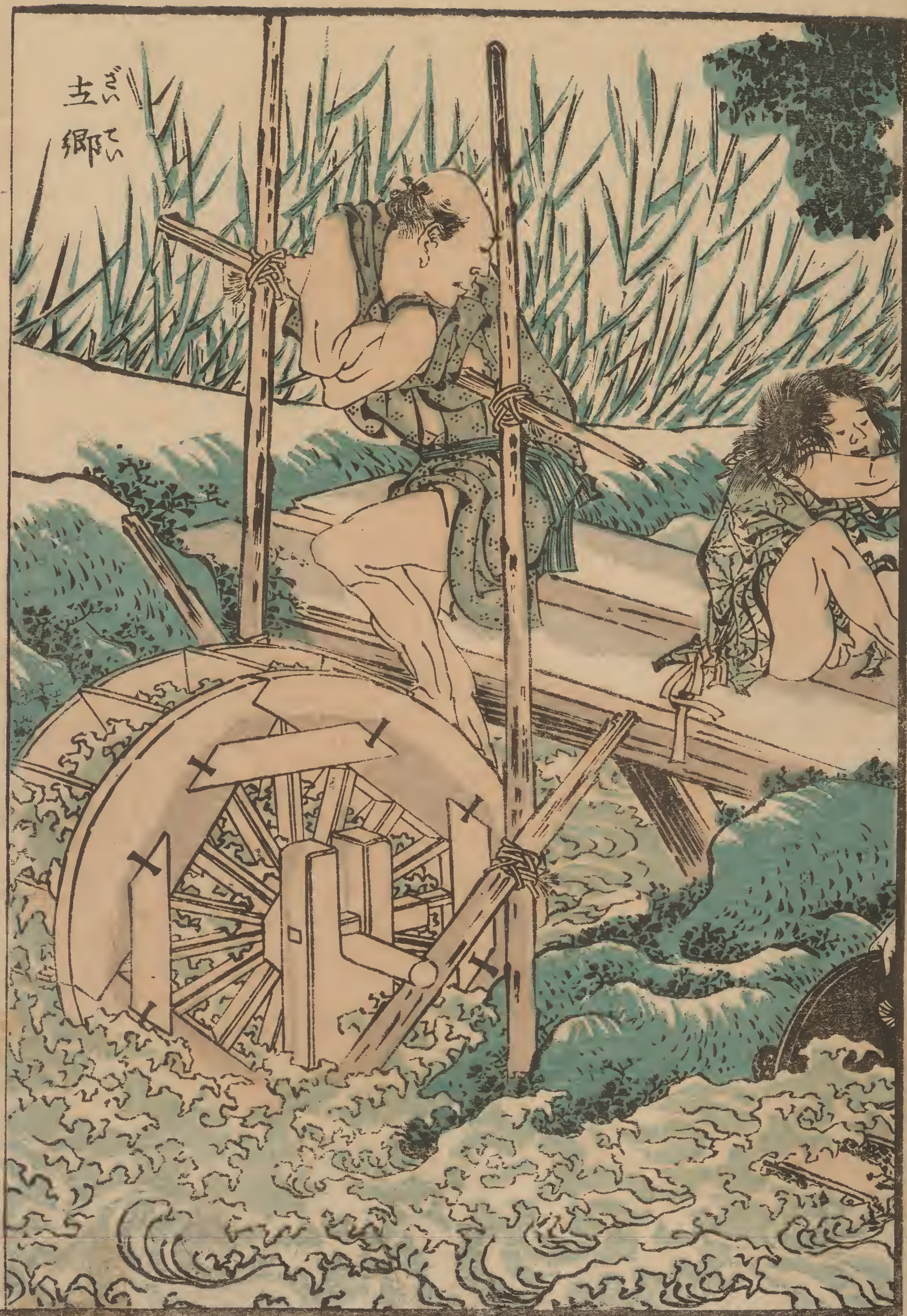














諸禮大學

泥尾先生著 溪齋英泉画

繪入既書 大本全二冊

初きりのハ白き糸のどく糸にはきく染り易きものなりてあけはばよき生じ申
 居るぬりのより行はる世のあらひなりさるゆゑに早くより師成えりて物學せ
 禮義をよく會得させ身をも名を著しとありて一志をも今の世にせむと
 信切よく人導く師に稀く杜撰のものありて初きりくも乃お
 そひされたりしひぬ長くも不察不考して衆人にうらやみをさへるなど
 敬へるべきゆゑあてしる著す大學の諸礼よりしるべし氏ありとも貴人より多き
 行ひの行要あると仮名文章に書けりきりあるとあるききりにも統易く解し
 やすきやうとありては後成加既書にいつし人の孝行忠信の傳をある諸礼の圖式も
 りてはとありてとまやふ載せしむべき本とありて學問に倦とありてのゆゑ
 人の名をあらひせんあつては名譽のたまりとありて師に教を受んりてハ平學びの
 ちりて此とありて一書の珍重廣大なること巻紙ひのりてかきし

